第二十講　文学論・文芸論

アリストテレス*は、コモーディア（喜劇）は人間を、現前の人々よりも、より悪く描こうとするのに対して、トラゴーディア（悲劇）は、より善く描こうとするものであると言った。しかしこの言葉は、特にコモーディアに関する言葉は、少しく注釈を必要とするように思われる。人間を、現前の人々よりも「より悪く」描こうとする作家と言えば、何か卑小な、日常生活の瑣事（さじ）にのみかかずらわって、高遠な理想も何も持っていない、低級な茶番の作家のようなものを、連想しがちな恐れがあるからである。

ギリシア喜劇の巨匠アリストパネースは自作『平和』のパラバシス**の中で、自分の作品は、他の作者の作品のように、貧乏人や宿無しをけなすのでもなければ、喰（く）いしんぼうのヘラクレス***をおもちゃにするのでもない、奴隷の逃亡を書くのでもなければ、口入れ屋****の饒舌（じょうぜつ）を書くのでもない、自分はここに、雄渾（ゆうこん）なスタイルを持った芸術を提供する、その芸術の壮麗な殿堂を飾るものは、高邁（こうまい）な言葉と偉大なイデー*****と斬新（ざんしん）な諧謔（かいぎゃく）とであると言った。すでにアリストパネースが自分の為（ため）に弁じるパラバシスの中で、露骨に是（これ）だけの事を言っている以上、当時のアテーナイに於（お）いて、コモーディアの作者の多くが、猥褻（ひわい）なものにより、卑小なものにより、瑣末浅陋（さまつせんろう）なものによって、人々を笑わせる事を能事（のうじ）と心得る傾向を持っていたという事は、疑う訳に行かないようである。それだけにまた当時のコモーディアが、識者たちから軽蔑されていたに違いない事も、想像するに難くない。

しかし A この事が、コモーディアそのものの価値を上下する問題ではなくて、コモーディアを借りて人々に呼びかけようとする、作者の価値を上下する問題であるに過ぎないという事は、言うまでもない事であった。アリストパネースの言うように、作者の作品に高邁な言葉と偉大なイデーと斬新な諧謔とがありさえすれば、たとえその中に猥褻なもの、卑小なもの、瑣末浅陋なものが含まれていようとも、尚且（なお）つそれは、立派なコモーディアとして通用することが出来るからである。

高遠な、もしくは偉大なイデーに生きる者は、多くの場合、現実眼前の世界に、あらゆる害悪とあらゆる欠陥とを見出（みいだ）す事を常とする。この際その現実眼前の世界から眼を背けて、自分自身のイデーの世界にのみ住む事の出来る者は、［　B　］である。しかしそれらのものを、何等（なんら）かの方法によって除去し填充（てんじゅう）し、自分の周囲の世界を、いくらかでも自分のイデーの世界に近づけ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

なければいられない者は、或（ある）いは C まともにその醜悪・欠陥を暴露する事によって、或いはその醜悪・欠陥を更に歪曲し、それを笑いものにする事によって、現実眼前の世界に働きかけて行くに違いない。そうして多くの場合、悲劇作者は、第一の方法を採ろうとする。喜劇作者は、第二の方法を採ろうとする。悪人を悪党として描こうとするのが悲劇作者であるならば、悪人を笑いものとして描こうとするのが喜劇作者であると言ってもよいであろう。アリストパネースも亦（また）、この意味に於（お）いて人間を、現在あるよりも「より悪く」描いているのである。

　しかし、現実の人間を、それが現在あるよりも「より悪く」描いて、尚且つ人々を牽（ひ）きつける事が出来る為には、その作者のイデーが高く且つしっかりしていなければならないのは、言うまでもないが、しかしそれとともに、その作者には、鋭利にして精到な、現実感覚がある事を必要とする。いくら作者のイデーが偉大であっても、そのイデーが、碌（ろく）に足が地についていない、空漠としたものであるならば、それと現実との交渉は、見当違いの、焦点を外れたものにしかなり得ないのは、言うまでもない事である。「より悪く」するレンズが余計に加わるだけに、喜劇の方が悲劇よりも、一層濃厚な現実感覚を必要とするとも、言えば言えなくもないのである。喜劇が常に写実主義と相伴（あいともな）うものとして連想されるのも、亦この故であるに外ならない。

　ギリシアに於いてコモーディアは、トラゴーディアと違って、その題材を主として現実眼前の世界から選び上げてきた。コモーディアの作者の現実感覚は、竟（つい）に神話・伝説の世界だけを題材とする事に堪えなくなった。それだからコモーディアの作者は、主として現実眼前の世界から、その題材を取り上げて来るのである。――その意味に於いて、D あらゆる偉大な喜劇作者は、一面に於いて、偉大なレアリストであった。

（小宮豊隆（こみやとよたか）の文章による）

（注）＊　アリストテレス――古代ギリシアの哲学者。『詩学』など文芸に関する著作もある。

＊＊　パラバシス――合唱集団であるコロスが、作者を代弁して歌う部分。

＊＊＊　ヘラクレス――ギリシア神話の英雄。

＊＊＊＊　口入れ屋――奉公人を周旋する職業。

＊＊＊＊＊　イデー――ここでは理念・理想といったような意味。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問１　傍線Ａの部分について。

（イ）この部分は、当時のコモーディアをめぐる状況を踏まえて述べられているが、その状況とはどのようなものか。本文に即して、句読点とも三十字以上四十字以内で説明せよ。

（ロ）「作者の価値を上下する」のはどのようなものであると、筆者は考えているか。それを明示した二十字以内の一続きの部分を本文中から抜き出し、その初めの二字と終りの二字とを記せ。ただし、句読点は含まない。

問２　空欄 B にはどんな言葉を補ったらよいか。次から最も適当なもの一つを選べ。

①　不幸　②　滑稽（こっけい）　③　幸福　④　気楽　⑤　悲惨

問３　傍線Ｃの部分について。この部分を別の意味で言い換えた一続きの部分を本文中から抜き出して記せ。

問４　傍線Ｄの部分について。ここで言う「偉大なレアリスト」とは、どのようなものか。本文に即して、句読点とも三十字以上四十字以内で説明せよ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二十講　知識モノ解説

文学史・人物解説

●筆者　小宮豊隆＝こみや　とよたか（一八八四〜一九六六）福岡県生まれ、東京帝国大学文学部独文学科で学ぶ。夏目漱石の門下生

●アリストテレス＝（紀元前三八四〜三二二）古代ギリシャの哲学者、プラトンの弟子。政治学、詩学、演劇学、倫理学、物理学（フィジックス）、形而上学（メタフィジックス）などの著書を残し「万学の創始者」と呼ばれる

語句

卑小＝ひしょう→取るに足らないほど小さい。日常的で身近すぎるような小さなこと

瑣事＝さじ→ささいでつまらないこと。「些事」とも書く。「瑣末浅陋＝さまつせんろう」もほぼ同義語

　関連語　日常茶飯事＝にちじょうさはんじ→ごくありふれた、日常的なこと

高遠＝こうえん→考えが高尚で深いこと

高邁＝こうまい→志などが高くすぐれていること

茶番＝ちゃばん→見えすいたばかばかしい振る舞い。「茶番劇」ともいう

饒舌＝じょうぜつ→おしゃべりで口数が多いこと。多弁

　関連語１　雄弁＝ゆうべん→はっきりと説得的に語ること

　関連語２　寡黙＝かもく→口数が少ないこと

能事＝のうじ→するべき仕事。やりとげるべきこと

雄渾＝ゆうこん→のびのびとして力強いことで、「雄勁＝ゆうけい」もほぼ同義語

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

諧謔＝かいぎゃく↓おもしろみがあって気がきいてること。冗談やユーモア。しゃれ
関連語　ウイット↓その場に応じて気のきいたことを言える知恵。機知
猥褻＝わいせつ↓性的なレベルで、みだらでいやらしいこと。ひわい
填充＝てんじゅう↓欠けたところを満たすこと。「充填＝じゅうてん」とも書く
醜悪＝しゅうあく↓容姿など見た目が醜い、あるいは、心のあり方が不愉快なほどけがらわしいこと
歪曲＝わいきょく↓事実をわざと、故意に変形させ、ゆがめること
関連語１　捏造＝ねつぞう↓実際には存在しないものごとを存在するかのようにでっちあげること
関連語２　改竄＝かいざん↓もともとの文や数値データを勝手に書き換えること
精到＝せいとう↓すみずみまで行き届いた、心を尽くしたということ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第二十講

次の傍線部にあたる漢字を、次の選択肢から選びなさい。

（ア）日常のヒ小なものに注目する　①日　②被　③卑　④灯　⑤秘

（イ）高邁で高エンな理想を掲げる　①円　②縁　③園　④延　⑤遠

（ウ）直接的でロ骨な表現を避ける　①魯　②炉　③露　④路　⑤呂

（エ）学会のシキ者たちの意見を聞く　①式　②識　③敷　④織　⑤色

（オ）商品に重大な欠カンが見つかる　①陥　②勘　③寛　④間　⑤肝

（カ）世の中の過ちをジョ去する　①叙　②徐　③除　④如　⑤所

（キ）悪人のシュウ悪ぶりを表現する　①囚　②臭　③衆　④醜　⑤羞

（ク）悪行のすべてをバク露する　①幕　②爆　③漠　④縛　⑤暴

（ケ）犯行は鋭リな刃物による　①利　②理　③裏　④梨　⑤裡

（コ）濃コウな味わいの牛乳を売る　①興　②効　③厚　④硬　⑤高

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二十講　文学論・文芸論

《本文の対比構造》

主役＝筆者の見解
偉大なコモーディア（喜劇）作者

高邁な言葉と偉大なイデーと斬新な諧謔
悪人をより悪く描き、笑いものにする
神話や伝説を題材とするだけでなく、
現実眼前の世界を題材とする

主な対比

比較相手＝トラゴーディア
（悲劇）作者

悪人を悪党として描く
神話や伝説を題材とする

対比

小さな比較相手

アリストテレス
アテーナイの識者の評価

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

《解説》

問１《傍線部説明・記述》

（イ）筆者の意見ではない、小さな比較相手の見解をまとめます。それが「当時のコモーディアをめぐる状況」です。第二段落に、「当時のアテーナイに於いて」「当時のコモーディア」がどのようなもので、しかも当時の識者からどんな評価だったのかが書かれています。詳しくいえば、どんなに低い評価だったのかが書かれています。さて、記述問題の解答の三原則は〝具体例はカット〟〝対比の表現〟〝繰り返されているものは大事〟です。これに基づいて解答をつくります。できあがったものは、模範解答を見ていただくとして、ここには、得点になるポイント箇所を挙げます。順番は問いません。自分の答案に、次に挙げるものが含まれていれば、その都度、加点してください。第一ポイント「理想がない」「イデーがない」、第二ポイント「卑小」「日常の瑣事」「瑣末」「瑣末浅陋」、第三ポイント「笑わせる」、第四ポイント「能事」、第五ポイント「識者から軽蔑」です。以上五つのうち、三つ取れるとすばらしいです。

（ロ）さて、右で見たように、当時評判の悪かった喜劇・コモーディアですが、筆者は違う意見です。コモーディアそのものが低級、価値が低いときめつけてはいけない、それぞれの作者の力量によると考えています。それが傍線部「この事が、コモーディアそのものの価値を上下する問題ではなくて、コモーディアを借りて人々に呼びかけようとする、作者の価値を上下する問題であるに過ぎない」です。たしかに、しょーもない喜劇作家もいただろうけれど、ちゃんとした喜劇作家もいたんだぞ、ということです。アリストパネースのように。では、何があれば、ちゃんとした喜劇作家とよべるのか。これが「『作者の価値を上下する』のはどのようなもの」かという問いの答えです。傍線直後に「作者の作品に高邁な言葉と偉大なイデーと斬新な諧謔とがありさえすれば」と条件を挙げていますよ。二十字以内の核心部分は「高邁な言葉と偉大なイデーと斬新な諧謔」です。あとは、初めと終わりの二字を答えてね。なお、「偉大なイデー」という語は、この第三段落だけでなく、第二段落にも、第四段落にも登場するキーワードですね。

問２《空欄補充・選択肢》

皮肉・アイロニー・イロニーになるように空欄を埋めますよ。どういうことか。世の中に、「現実眼前の世界」にイヤーなこ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

とを見つけた場合の対応の仕方が三パターン書かれています。仮に、ア・イ・ウとしましょう。はじめに、アは「その現実眼前の世界から眼を背けて、自分自身のイデーの世界にのみ住む事の出来る者」、イが「まともにその醜悪・欠陥を暴露する事によって」「自分の周囲の世界を、いくらかでも自分のイデーの世界に近づけなければいられない者」、ウが「その醜悪・欠陥を更に歪曲し、それを笑いものにする事によって」「自分の周囲の世界を、いくらかでも自分のイデーの世界に近づけなければいられない者」です。筆者がオススメしているのは、ウの道ですが、問２の空欄はアの道に関わるものです。ここでアの「住む事の出来る」という肯定表現に注目します。しかもその直後で「しかし」という逆接の接続語で、乗り越えて、もっと良いものを紹介しているというスタイルです。つまり、一見、表面上は肯定でもその真実の意味は、否定というしかけです。こういうのを皮肉というのですよ。したがって、空欄にはその〝表面上は肯定〟の表現を選びます。③の「幸福」が正解です。〝イヤなことから、目をそむけられるなんて、キミは幸せなヤツだな〟という痛烈な皮肉・いやみを形成するわけです。①の「不幸」、②の「滑稽」、⑤の「悲惨」などは、いきなり否定的表現になってしまい、皮肉になりませんからね。④の「気楽」を選んだ人、おしいです。△とします。なぜ、○でないかというと、「気楽」は「幸福」と比べて一時的なものです。大きな皮肉になりません。

問３《傍線部言い換え・抜き出し》

傍線部は、問２の解説でいうとイのパターンですね。それはトラゴーディアを書く人、「悲劇作者」の採用する方法と書かれています。「悪人を悪党として描こうとする」という方法で、これが正解です。コモーディア、喜劇作者がウのパターンで、「悪人を笑いものとして描こうとする」「より悪く」描こうとするのと対照的ですね。

問４《傍線部説明・記述》

筆者がオススメの「偉大な喜劇作者」の特徴をまとめます。記述の三原則〝具体例はカット〟〝対比の表現〟〝繰り返されているものは大事〟でいきますよ。第一ポイントは「偉大なイデー」「イデーが高い」「イデーがしっかりしている」「高い理想をもつ」という主旨です。第二ポイントは「現実感覚がある」「現実感覚が鋭い」「鋭利な現実感覚」「精到な現実感覚」などです。第三ポイントは「神話・伝説だけを題材にせず」（神話と伝説はどちらか一方でもよい）です。対比です。第四ポイントが「現実眼

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

前の世界を題材にする」です。以上、四つのうち、二つ取りたいです。

模範解答

問１　（イ）理想もなく卑小なもので人を笑わせることを能事とし、識者から軽蔑されていた状況。

（ロ）高邁～諧謔　　問２＝③　　問３　悪人を悪党として描こうとする

問４　高いイデーと鋭利な現実感覚をもち、神話だけでなく現実眼前の世界を題材とする者。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　解答　第二十講

（ア）③　（イ）⑤　（ウ）③　（エ）②　（オ）①
（カ）③　（キ）④　（ク）⑤　（ケ）①　（コ）③

解答漢字一覧

（ア）卑小　（イ）高遠　（ウ）露骨　（エ）識者　（オ）欠陥
（カ）除去　（キ）醜悪　（ク）暴露　（ケ）鋭利　（コ）濃厚

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。